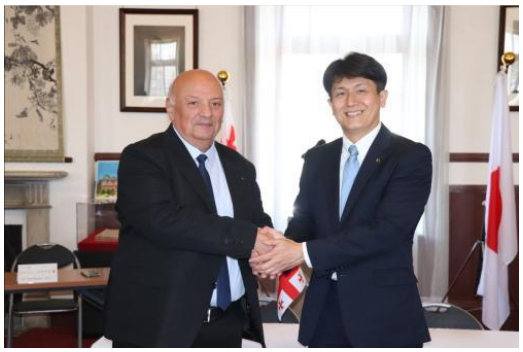
多文化共修 in ジョージア（3月）

牛久=テラヴィの姉妹都市交流を進展させよう

筑波大生と牛久の高校生の合同ワークショップ in ジョージア

1. 企画趣旨



2026 年 5 月、茨城県牛久市はジョージア（グルジア）・テラヴィ市と姉妹都市協定を結びました。背景として、8,000 年前に遡るワイン発祥の地・ジョージアのなかでも、ワイン生産の一大中心地であるテラヴィと、明治時代に設立した日本初のワイナリー・牛久シャトーのある牛久という、ワインを軸とした交流への期待があります。

しかしながら、

交流の具体的なプランはなにも決まっていません（！）
あなたは牛久とテラヴィの姉妹都市交流の具体化に向けて、
何を提案できるでしょうか？

本プログラムでは、牛久市内にある高校在籍ないし牛久市在住の高校生と筑波大生が合同で研修を行います。事前学習として牛久市での視察・研修を経たのち、テラヴィに一定期間滞在します。滞在期間中は、テラヴィ市役所やテラヴィ大学、市内の学校、さらにはテラヴィ周辺の観光地やそうでない場所も視察し、交流に向けたポテンシャルを参加者の学生が主体的に発掘していきます。ゴールとして、帰国後に牛久市長を表敬訪問し、今後の姉妹都市交流の進展に向けた提言をすることを目指します。

なおテラヴィは、2026 年 7 月 12 日に豪雨災害があり、市の中心部を流れる川で鉄砲水





による洪水被害が発生しました。市内の商業地区とともに、流域のワイン畑が被害を受けています。本プログラムでは、そうした被害を受けた農家への支援がどのように可能であるかについても、参加者の学生が主体的に参与していくことを目標とします。

2. 期間

2027 年（以下は予定）

3 月上旬　牛久市または筑波大学で事前学習（牛久市長への表敬訪問・牛久市の視察等）
3 月 13 日　日本出国
3 月 14 日　ジョージア着・テラヴィへ移動
3 月 15–18 日 テラヴィ大学でのグループワーク、フィールドワーク
3 月 19 日　トビリシへ移動、イリア大でのグループワーク
3 月 20 日　在ジョージア日本国大使館への表敬訪問
3 月 21 日　ジョージア出国
3 月 22 日　帰国
3 月下旬　事後学習（牛久市長への表敬訪問・政策提言）

3. 費用（概算）

［参加者が支払うもの］

- 往復航空券（20~30 万円）
- 宿泊費（1 泊 5,000~10,000 円）
- 飲食費・現地交通費などの雑費
- 海外旅行保険、OSSMA 加入費

［研修の予算から支払うもの］

- トビリシ・テラヴィ間の交通費（バス）

- 参加者ははばたけ奨学金（採用の場合 15 万円支給）へ応募可能です。

4. 参加条件

- 研修の全期間に参加できること
- 筑波大生や他の高校生の参加者と協調し、学修活動に意欲的・主体的に参加できること

5. 対象

- 筑波大学に正規在学している学生・院生

6. 定員・選考

- 定員 10 名

- 希望者多数の場合、以下の学生を優先しつつ、選考を行います
  - 牛久市在住者・市内の高校卒業者など、牛久市と関連のある者
  - 比較文化学類の学生

7. 参加申し込み

11 月 30 日までに、以下の Forms よりエントリーしてください。

牛久=テラヴィの姉妹都市交流を進展させよう

8. 実施責任者・問い合わせ先

五月女 颯（人文社会系）
メール：Sotome.hayate.ga@u.tsukuba.ac.jp
Teams（チャット）：五月女　颯